

# 滋賀大学経済学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1-1 滋賀大学経済学部後援会 発行責任者／戸田 茂  
URL: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=31>

<b>目次</b>	<b>国際交流</b> . . . . . 8
後援会会長・学部長等挨拶 . . . . . 1	<b>就職活動と支援</b> . . . . . 10
卒業式・送辞 . . . . . 2	<b>就職状況</b> . . . . . 12
入学式・歓迎の辞 . . . . . 3	<b>進学先・就職先一覧</b> . . . . . 13
入学状況・大学紹介 . . . . . 4	<b>平成25年度決算・後援会総会</b> . . . . . 15
学生活動だより . . . . . 7	<b>平成26年度予算・役員名簿</b> . . . . . 16

## 会長挨拶

後援会会長 戸田 茂



戸田後援会会長

自然と歴史に恵まれた彦根は、四年間の学生生活を送るに相応しい街だと思えます。全国から集う学生諸君との出会いを大切に、先生方のご指導のもと互いに切磋琢磨し学生の本分を尽くして頂きたいと望みます。

四月に開催された通常総会で、後援会費の増額についてご承認を頂きましてありがとうございます。この増額については、後援会が学生諸君の勉学、留学、文化・体育クラブ活動を更にサポートすることを目的としてお願いを致しました。今後とも学生の為の後援会として活動を致しますのでご支援下さいませ様お願い申し上げます。

## 学部長挨拶

経済学部長 小倉 明浩

後援会会員の皆様には、日頃より多大なご支援をいただいておりますこと、まず御礼申し上げます。目下国立大学は、社会における評価をより一層高めることを目標とし運営することが求められています。それは何よりも教育・学生生活環境を充実していくことを通じて達成できるものです。大学の価値を高める上で、学生諸君がより豊かな人間性を獲得し専門能力を高めていくことや、大

学への愛着と誇りをもって卒業を迎えることがカギとなるからです。経済学部長として、その目標を実現するよう学部運営に精励してまいりますので、今後ともご支援を賜りますようお願い致します。

## 副学部長挨拶

総務・企画担当 大濱 巖

総務・企画担当としてカリキュラム改革や学習支援体制の強化を担当いたします。カリキュラム改革では導入より10年が経過したコア科目の成果を検証し、より学生に付加価値をつけられるカリキュラムを検討します。学習支援では本学部の様々な教育リソースを有効活用し、学生の主体的な学びを促していきたいと思っております。後援会の皆様のご支援をお願い申し上げます。

学務学生生活担当 太田 善之

学務・学生生活担当として、学生の入学から卒業までに至る学業及び生活面をサポートする業務を担当致します。学生諸君が直面するあらゆる問題に日々取り組むことが仕事であり、皆様のお子様とのかかわりが最も多い職務と言えます。学生個々の視点に立って、彼らが出来るかぎり有意義な学生生活を送ることができるよう努力してまいります。よろしくお願ひ申し上げます。

入試・広報担当 和田 佳之

いかに優秀な人材を集め社会に輩

出するかという事が、大学の評価を決定的に左右する、ますます重要な要因となって来ております。本学部もグローバル人材育成コースの創設をはじめとして、他大学との大競争の中で生き残ろうと日夜奮闘しております。後援会の皆様方には、今まで以上のご支援と共に厳しくも温かい眼で叱咤激励を賜りますようお願い申し上げます。

## 副研究科長挨拶

近藤 學

大学院経済学研究科は設立後、前期課程が42年、後期課程が12年目を迎えます。この間、多くの修了生を送り出し、社会の発展に多に貢献してきたと自負しております。昨年度は学部・大学院5年一貫教育プログラムを導入という改革も行いました。ご子弟の卒業後の進路選択肢の一つとして本学大学院進学を考慮していただくようお願いいたします。



後列 和田 太田 大濱 各副学部長  
前列 近藤副研究科長 小倉学部長

## 平成25年度卒業式

平成25年度滋賀大学卒業証書・学位記、大学院研究科学位記、特別支援教育専攻科修士証書授与式を3月26日午後1時から、大津市のびわ湖ホールで挙行了しました。

今年度は、教育学部246名、経済学部535名、大学院教育学研究科44名、大学院経済学研究科38名、専攻科11名、大学院経済学研究科博士後期課程1名の合計875名が本学を巣立ちました。

佐和学長からの学部、大学院、専攻科の代表者への卒業証書等の授与に続き、学長告辞で「教育、公務、ビジネスなど、いずれの職場においても、努力、創意、決断、勤勉をモットーとして、暗雲を払いのけ、近い将来、青空が垣間見えるよう、日々、努めてほしい」とのはなむけの言葉が贈られました。続いて、在校生を代表して経済学部3回生の鷺崎翔子さんからお祝いと感謝の言葉、また、卒業生を代表して教育学部卒業生の青木誉拓さんから「社会にでてからも常に学び、更なる成長を続け、社会に貢献していくことを誓います」との決意と教職員、在校生への感謝の言葉が述べられました。

引き続き、学業成績優秀者学長賞表彰が行われ、教育学部と経済学部において、在学期間中に最も優れた学業成績を挙げた教育学部卒業生の池田百合香さんと経済学部卒業生の下位礼香さんの2名に、佐和学長から表彰状と記念品が贈られ、その努力と成果を称えました。

## 送辞

本日、平成25年度滋賀大学卒業証書授与式にあたり、在校生を代表し、お祝いと感謝の言葉を述べさせていただきます。

湖国の冬も終わり、辺り一面春光に包まれつつあるこの良き日に、それぞれの課程を修了され、今日の



送辞を述べる鷺崎さん

この日を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

皆様の卒業が、こんなに早く来るとは思ってもいなく、信じられない気持ちとともに、寂しさがこみあげてまいります。皆様は、私たちの最上級生として勉学やサークル活動、部活動、学園祭などの課外活動などで、時には優しく、時には厳しく、心強い先輩として熱心に私たちをリードしてくださいました。そんな過ぎた日々のが懐かしく思い出され、感謝の気持ちとともに、皆様とお別れする寂寥感が入り乱れております。

今年の2月に行われたソチオリンピックでは、多くの日本人選手が活躍されました。日本選手団主将である葛西紀明選手は、41歳で7度目のオリンピック出場であり、22年間もの間、第一線で活躍し続けてきたのです。そんな葛西選手のように、皆様が第一線で活躍され、素晴らしい人生を送っていかれることを心から願っております。

今、先輩方は、胸に夢と希望を抱いて、新しい世界に羽ばたこうとしていらつしやることと思いますが、どうかその夢と希望を絶やすことなく、滋賀大学で学んだことを礎にご活躍ください。就職、大学院進学と環境が違って、この滋賀大学でも先に人生の一時期を過ごしたことで、先輩方の中には強い絆が培われ



学長賞表彰を受ける下位さん

ていることと思います。私たちが在校生も、先輩方が築かれた本校の素晴らしい伝統を守り、受け継ぎ、悔いのない学生生活を送るために、一層精進、努力いたします。卒業後も時には母校を訪ね、元気なお姿を見せてくださいとともに、私たちを励ましてください。お待ちしております。先輩皆様方のご健康とご活躍を、心からお祈りし、送辞とさせていただきます。ありがとうございます。

平成26年3月26日

在校生代表

経済学部3回生 鷺崎翔子

## 平成26年度入学式

4月4日(金)大津市の「びわ湖ホール」において、平成26年度滋賀大学入学式を挙行し、教育学部256名、経済学部603名、大学院教育学研究科57名、大学院経済学研究科45名(うち博士後期課程5名)、特別支援教育専攻科8名の総計969名が、新しい学生生活のスタートを切りました。

式典では、学歌独唱の後、入学生を代表し教育学部中西侑紀さんが宣誓を行い、「学則を守り、学生としての本分を尽くすこと」を誓いました。引き続き佐和学長から入学生の皆さんに「教養と専門的学識を備え



告辞を述べる佐和学長

た、世界で競える人材に育ってくださることを願う」と告辞がありました。続いて、来賓を代表して教育学部同窓会山川芳志郎会長から祝辞があり、その後在學生を代表し経済学部4回生の寺田翼さんから歓迎の言葉が述べられ、入学を祝しました。

式典終了後、オリエンテーション「キャンパスライフ・イン・滋賀大学」が開催され、健康に関する講演会と在學生が取り組んでいる学生自主企画プロジェクトの紹介があり、入学生はこれから始まる大学生活に期待に胸を膨らませていました。

## 歓迎の辞

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。また、この入学式にご臨席くださいましたご家族の皆様にも、心からお祝い申し上げます。

滋賀大学は城下町・彦根に位置する経済学部と、旧都・大津にある教育学部の二つの学部から成り立っています。いずれのキャンパスも雄大な琵琶湖のほとりにあり、大変美しい環境にあります。このような恵まれた環境の中で学業や課外活動に励むことよって、深い見識と豊かな人間性を持った社会人になってほしいという、先人からの願いが込められていることと思います。

さて、今日から大学生活のスタートを切る皆様ですが、今どのような気持ちでしょうか。これから訪れる

新しい出会いや経験に期待を寄せていることでしょう。また、新しい環境に身を置くことに不安を感じていることでしょう。皆様の大学生活が充実した良いものになることを願っています。私から一つお伝えしたいと思

それは「出会いを大切にしてほしい」ということです。さて皆様、自分にとっての「成長」とはどういうことだと思えますか。私は様々な人に出会い、多種多様な価値観に触れることで、自分の価値観を磨いていくことが自分の「成長」だと考えます。皆様はミラーニューロンという

ものをご存知でしょうか。人間の脳にはミラーニューロンと呼ばれる細胞が数多く存在することがわかっています。この細胞は他人が考えていることや感じていることに対して常に注意を払っています。このミラーニューロンの働きによって、私たちは他の人の意志に影響を受けたり、逆に他の人の意思に影響を与えたりしています。例えば、部活に意識の高い人が一人入っただけで部全体の雰囲気良くなったり、逆に意識の低い人に引きずられてしまったりします。このように、私たちは他人からの影響を非常に受けていることがわかります。これから皆様は部活動やサークル、アルバイトなどを経験

していく中で、とても多くの人に出会うでしょう。高校までとは違い、大学にはいろいろな地方から出てきた



歓迎の辞を述べる寺田さん

学生がいます。アルバイトでは社会人の方とも関わりを持つでしょう。その人達が持つ価値観は様々です。その点で、大学生活が人生で最も成長できる期間と言えます。多種多様な価値観に触れ、自分を磨きあげていってください。

入学式が終わり、会場の外に出たら、多くの先輩が皆様を待ち構えていることでしょう。大学生活最初の出会いです。尻込みせず勇気をもって一歩を踏み出してみてください。いろんなものを吸収し、新しい滋賀大学を私たちと一緒に作っていきましょう。皆様のご活躍を期待しています。

平成26年4月4日

在校生代表

経済学部4回生 寺田翼

**平成26年度 入学状況**

**入学試験状況（経済学部・大学院経済学研究科）**

	区分	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
経済学部	昼間主	500	2,334	1,423	662	534
	夜間主	50	128	125	88	50
	3年次編入	20	85	83	35	19
	計	570	2,547	1,631	785	603
大学院	前期課程	42	62	60	46	40
	後期課程	6	7	7	5	5
	計	48	69	67	51	45

**滋賀大学入学者一覧**

経済学部	603	
大学院 経済学研究科	前期課程	40
	後期課程	5
教育学部	256	
大学院教育学研究科	57	
特別支援教育専攻科	8	
入学者合計	969	

**都道府県別入学者数（経済学部）**

岩手県	1	0.2%	福井県	12	2.1%	奈良県	13	2.2%	福岡県	6	1.0%
茨城県	1	0.2%	長野県	3	0.5%	和歌山県	7	1.2%	宮崎県	4	0.7%
栃木県	1	0.2%	岐阜県	55	9.4%	鳥取県	7	1.2%	鹿児島県	2	0.3%
群馬県	1	0.2%	静岡県	8	1.4%	島根県	7	1.2%	沖縄県	1	0.2%
埼玉県	2	0.3%	愛知県	109	18.7%	岡山県	4	0.7%	留学生	10	1.7%
千葉県	3	0.5%	三重県	22	3.8%	広島県	5	0.9%	その他	4	0.7%
東京都	1	0.2%	滋賀県	95	16.3%	山口県	3	0.5%			
神奈川	2	0.3%	京都府	88	15.1%	香川県	5	0.9%			
富山県	6	1.0%	大阪府	43	7.4%	愛媛県	3	0.5%			
石川県	6	1.0%	兵庫県	41	7.0%	高知県	3	0.5%	合計	584	

**大学紹介**

**◆ 事業の取り組み紹介**

**学生の主体的な学びを基礎とする教育システムの刷新**

「経済・経営系教育における白熱教室の創出」プロジェクト責任者 武永 淳  
 本事業は文部科学省からの特別経費により昨年度から開始したものです。事業は次のような背景・問題意識に基づいて企画されたものです。

グローバルマナーに象徴される国際的な経済活動に影響され、予測を超えた事象がしばしば発生する現代社会において、自ら学び続け、主体的に考え、行動できる人材を育成することが強く求められている。

日本の学生は、授業のための事前・事後学習が極端に少ないと言われていた。現代社会が直面する課題に次代の日本社会を牽引する人材を育ててゆくためには、こうした大学教育の質的転換が図られなければならない。

近年、「白熱教室」が話題となったが、あの授業は多くのTA (Teaching Assistant) を動員した事前の準備を前提にしてはじめて成立している。それをそのまま踏襲することは日本の大学の現状では困難ではあるが、ICTを活用したり、コア・セッション等の経験を踏まえて、文科系の授業でどのような工夫をこらせるかに挑戦する。そして「現代社会に対応した社会人

基礎力を備え、広義のビジネスリーダーとして活躍できる人材の育成機能強化」のために以下の3点の実現をめざしている。①受動的、一方的な授業方式ではなく、アクティブ・ラーニングの要素を導入して授業を主体的、双方向的なものとし、学習成果を向上させる。②上記の過程のなかで、授業を行う側の一員として学生を積極的に登用し、そうした経験を通じて彼らの成長を促して、主体的に考え、学ぶ力を強化した学生を「層として」生み出す。③層として生み出した上記のような学生を軸として、学生が相互に学びあい高めあう知的成長の好循環を創り出す。

平たく言うならば、「学生にもっとしっかり時間をかけ日頃から勉強し、考える力をつけてもらいたい」、「講義もできるだけ双方向的なものにし、学生が主体的に参加できる仕組みを作りたい」ということです。

幸いにも本学部では、学生の協力によって教員だけでは手の回らない部分を補ってきた実績があります。進級要件となつてきた科目の「4単位もの」について、演習問題を実際に解くことを通じて理解を深めるべく、コアセッション(CS)と呼ぶクラスを開設し、CSの実施にあたっては前年の成績優秀者などのなかからSA (Study Assistant) を募って、担当教員の指導の下、SAが教壇に立つて教えることを実施してきました。

こうした授業方式は、学生の視点で解説するほうが受講生にとって分かりやすい面があり、また気軽に質問もし

やすいとの顧慮とともに、SA自身が教える側に立つことで修得した学習内容を見直して理解を深め、成長してくれることも期待したものです。各学期終了後のSAの感想文や、担当者等との懇談会でも、「大勢の学生の前で話す体験をしたことで、自信をもち、積極的にいろいろなことに取組めるようになった」との感想が多く、こうした学生の成長体験をより多くの科目に広げ、講義への多様な形で学生の関与機会の拡大を探ることも本事業の企図のひとつです。

昨年度は手始めとして「授業実態の把握のための教員アンケート」を実施しました。その結果は予想通り、予習を前提としない授業の多さ(教養科目91%、専門科目68%)でした。また、ICTシステム利用状況も「滋賀大学キャンパス教育支援システム」(SUCCESS)利用が5割弱、「滋賀大学・学習管理システム」(SILMS)は4.4%という状況でした。本学の「平成25年度FD報告書」では、過去5年平均で、1週間に全くその授業について勉強しないという学生が、コア科目(選択必修科目)で31%。それ以外では50%という状況ですから、教員と学生の意識を変えないと学生に「学士力」を保証していくことはできません。

授業時間を確保しつつ、学生にしっかり予習復習をしておこうとすれば、ICT等を利用して、できるだけ効率よく、学生への教材提供、課題提出、小テスト等の実施が行えなければなりません。時間的負担が多ければ、

熱意だけでは結局長続きしません。本事業では、多くの教員・学生が使用に慣れているSUCCESSを教育サポートツールとして手軽に活用できるものに改修し、小テスト機能を組み込みました。また、本格的なLearningシステムであるSILMSについては、利用の普及のため機能改善を行い、従来に比べてレポート閲覧、評価など大幅に時間短縮が実現し、より頻繁に課題を課すこと等が可能となってきました。

さらに、大規模授業における学習保障への取り組みとして「比較経営論」等をパイロット授業として設定し、出席管理の徹底、講義の双方向性の確保(課題の提出とそれへのコメント)、事前提供資料等を踏まえた学生の授業での発言の活発化などを目指す取組を行い、上記ICTも活用しつつ、授業改善の道を探求しています。

本年度は、コア科目のSAなど従来からの制度を充実させていくとともに、学生の授業外学習をしっかりと確保し、双方向性の確保された通常授業の数を着実に増やしていきたいと考えています。教員のほとんどは、その専門領域において是非とも学生に伝えたい、理解してもらいたい、考えてもらいたいという強い思いを持っており、学生に確実な知識と主体的に考える力を身につけてもらおうと様々な工夫を行っていることが本事業に取り組むことよって鮮明となってきました。経験を共有化することにより、それぞれの教員の資質、講義内容、学生の状況に見合った授業スタイルを選択・工夫することを可能と

し、本事業が終了する平成28年度には、「大学生は勉強しないものだ」という状況が、大幅に改善され、着実な学力と学生に発言を求めれば多くの質問や意見が飛び出してくるという活気ある講義が数多くみられるという状況を現出し、「学ぶ方法を学んだ」多くの学生を社会に送り出すことを是非とも実現したいと考えています。

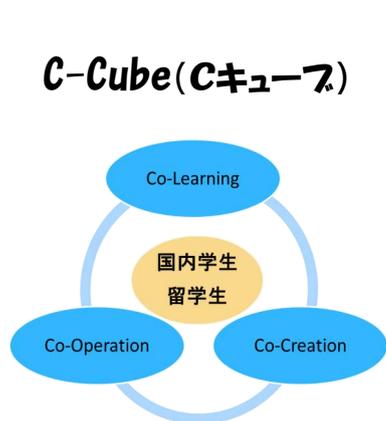
**グローバル人材育成コースを新設**

●コースの概要とコンセプト  
経済学部では平成26年度に、新たに「グローバル人材育成コース」を設置いたしました。留学生と国内学生それぞれ10名程度で構成されます。留学生(国費留学生・私費留学生)は全員がこのコースに属し、国内学生は昼間主コースの合格者から選抜されます。

本年度の留学生は、中国出身者6名、ベトナム出身者4名、マレーシア出身者が1名の合計11名となりました。

国内学生は143名の申請があり、そのうち13名を選抜いたしました。この申請者数は経済学部が想定していた人数をはるかに上回るもので、入学者のグローバル化への強い関心がかがえました。

本コースのコンセプトは、Cキューブ(Cの三乗)と呼ばれるものです。国内学生と留学生がともに学び(Co-Learning)、ともに力を合わせて(Co-



operation)、ともに価値を創りだします(co-creation)。

本学の卒業生の多くが民間企業に就職しますが、企業ではグローバル化への対応が急務になっており、異なる国籍・異なる文化的背景を持つ人々と、ともに働き価値を生み出せるような人材を強く求めています。もちろん行政やNPO(非営利組織)においても、グローバル化の影響が大きくなっています。日本と関係の深い東アジアや東南アジア出身の学生とともに過ごす経験は、国内出身の学生にとって貴重な経験となり、将来に役立つでしょう。

これまでも経済学部生の中には、留学生との出会いがきっかけで、海外に関心を抱くようになり海外留学や海外インターシップを決意した学生が少なくないからです。

●コースのカリキュラム

このコンセプトを実現するため、コースのカリキュラムを大きく四つの部分で構成しました。コースの学生は各学科の卒業要件

と、コースの修了要件の双方をクリアすべく勉学に取り組むことになりまし。

第一は「マルチリンガル教育」です。国内出身の学生は、2年生終了時点で週に4コマの英語を学びます。そのうち2コマはコース独自の特別授業で、「プレゼンテーションやライティングなどの実践的コミュニケーション能力を徹底的に鍛えます。担当するのは、ネイティブスピーカーの専任教員です。また第二外国語も学び、「マルチリンガル」を目指します。一方で、留学生は本学の必修科目である英語を学びつつ、日本語能力強化のための特別授業を受講します。

第二は異文化理解のための教育です。多くの国内学生・留学生にとっで、同年代の外国人と接するのははじめての経験です。当然、様々な不安や戸惑いを抱えていることでしょう。そこで、相手の文化や価値観を尊重しつつ、自分の意見も率直に表現して交流を深めていくための知識やテクニックを、専門家の助力も得ながら学んでいきます。

第三は体験的プロジェクト科目です。「チームで協力してものごとを進めていくためのスキル」は企業だけでなく、自治体やNPOのような組織でも必要とされます。そこで、社会の問題解決につながる実践的なプロジェクトに、国内学生と留学生がともに取り組むことで、協働のスキルを磨きます。

第四はインターンシップです。国内学生は3年生夏休みに、3週間の海外研修・インターンシップを計画しています。留学生は日本国内で3週間のインターンシップを体験します。若い時の海外での体験は、何事にも代えがたい貴重な経験になり、視野が大きく広がると考えられます。もちろん国内学生の中には、はじめて海外体験をもつ学生もいるでしょう。健康面・メンタル面はもちろんのこと、安全管理にも細心の注意を払いながら実施していく予定です。

#### ●全学生に向けたグローバル教育

経済学部では、本コースだけでなく、全学生に向けてグローバル化に対応した教育を充実させてきています。ここでその一部をご紹介します。

授業では英語はもちろんのこと、第二外国語も必修として課してありますが、授業時間以外にも学生が自学自習できるような環境の整備に努めてまいりました。e-learning方式による英語の自学自習教材を導入している他、アクティブ・ラーニング・ラボ(通称ALL)とよばれる部屋には充実した語学教材(本・DVD・CD)が配置され、ネイティブの留学生による語学レッスンも開催されています。

さらに学生が自身の英語力を把握することができるよう、後援会のみなさまのご助力のもとでTOEICの団体受験(TOEIC)を実施しています。学生は公開テストよりも低価格

で受験することができるようになっています。

また全学組織である国際センターでは、アメリカ・オーストラリア・タイ・韓国・メキシコ・中国への短期海外研修を実施しており、経済学部生も毎年積極的に参加しています。

経済学部の学生が、グローバル社会でたくましく生き抜いていけるように、今後さらに教育を充実させてまいります。どうかよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 学部・大学院の選択制

#### 5年一貫教育プログラムを導入

経済学部では、平成26年度より、選択制の「5年一貫教育プログラム」を導入いたしました。

経済学部を優秀な成績で卒業していることや、滋賀大学大学院経済学研究科前期課程への進学等を条件として、希望者が学士号と修士号を合計五年間で取得できるようになる制度です。

学部を3年間で早期卒業して2年間で大学院の修了を目指すルートと、学部を4年間で卒業して1年間で大学院の修了を目指すルートがあります。これまでは、学部卒業には4年間、大学院(前期課程)修了には2年間と最短で6年間が必要でした。これを1年短縮することができるよう

うになるため、授業料や生活費の負担等を節減できることになりました。

本制度の導入にあたり、専門知識を段階的に、かつ効率的・効果的に学ぶことができるように、学部と大学院のカリキュラムを改定いたしました。また学部在籍時に大学院の科目を一部先取りして受講できる仕組みも整備いたしました。

現代社会では各界で、より高度な専門知識が求められるようになってきました。専門職業人を目指す場合にはもちろんのこと、研究者をめざす場合でも、大学院教育が果たす役割は大きくなっています。

滋賀大学の大学院経済学研究科は、経済学専攻、経営学専攻、グローバル・ファイナンス専攻と3つもの専攻を擁しています。他大学と比較して多彩な科目を提供しており、学際的な研究も可能で、少人数教育が徹底していることが特徴です。その結果、それぞれの院生の将来プランにあわせた研究を行うことができるようになっていきます。

選択制5年一貫教育プログラムを活用するためには、1回生時から必要な単位を確実に修得して基礎をしっかりと身につけ、体系的に専門的な知識を学んでいくことが必要となります。経済学部生のみならずには、1回生時からぜひ計画的に履修を進め、本学経済学研究科への進学を、将来の選択肢に入れていただけましたら幸いです。

学生活動だより

経済学部株式投資研究会

『日経TEST』において全国1位

平成25年11月開催の『日経TEST (Test of Economic Sense and Thinking) 学生団体対抗戦』において、本学部株式投資研究会が全国1位に輝きました。全国から88チームが参加し、その中でも慶応義塾大学、名古屋大学などの強豪校を抑えての見事な優勝でした。

また、個人の部においても、本学部3回生(当時)の山口正倫くんが624名中、全国1位に、同じく丹羽伸茂くんが全国9位に入賞しました。こちらも驚くべき快挙であり、賞賛に値するものと皆で喜んでいました。

今後メンバー全員が上位入賞を目指してがんばると氣勢を上げています。今後の活躍に期待します。



経済学部オーケストラ部

公開定期演奏会30周年

経済学部オーケストラ部が公開定期演奏会を開催し、今回で30周年となった。演奏会には、約1000名



公開定期演奏会 (ひこね文化プラザ)

前後の市民の皆様に参加いただき、毎回、好評を博している。

演奏会は、序曲、協奏曲、交響曲の3部構成が通例で、協奏曲ではプロのヴァイオリニストないしピアニストを招き、また定評のある指揮者を東京から招へいして指導を受け、迫力あるナマのオーケストラ演奏を市民の皆様提供しているものである。

彦根でこうした機会は希少であるだけに、定期的なこうした活動を提供し、毎年多くの市民の方から親しまれているうえでも、大きな貢献となっている。また、演奏会の水準を保つための長期間の練習や、ソリストや指揮者を招くための資金繰りの努力も並大抵のものではない。現役部員の努力を始め、OB諸兄の皆様の援助のたまものと感謝している。今後も、末永く定期演奏会が続くことを願ってやまない。

経済学部バドミントン部

女子チーム 近国体優勝



チームが団体優勝を成し遂げました。日頃からの練習の成果を遺憾なく発揮し、全参加校十数校の中からの見事な優勝でした。

部員からは、この優勝を機に、今後も優勝めざしてがんばっていきますという強い決意が伺えました。今後の活躍に期待がかかります。

経済学部弓道部副将が

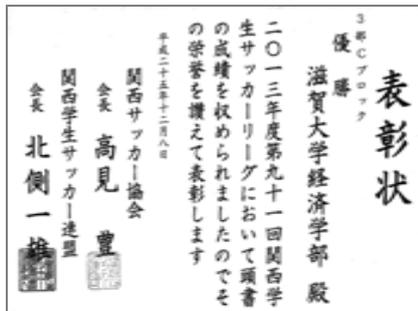
近国体個人戦で準優勝



第51回近畿地区国立大学体育大会において、経済学部弓道部男子副将の前田充慶くんが個人準優勝を成し遂げました。全神経を集中しての見事な準優勝でした。

部員からは、この準優勝を機に、『それぞれが優勝をめざしてがんばるぞー』と誓いを新たにしています。今後の活躍に期待がかかります。

経済学部サッカー部関西学生サッカーリーグ3部準優勝 2部へ昇格



経済学部サッカー部が第91回関西学生サッカーリーグ3部Cブロックにおいて優勝を収め、3部A、B、C各ブロック優勝チームによるリーグ戦で2位となり、3部準優勝を果たしました。これにより、2部Bリーグへの昇格が決定しました。また3部Cブロックでは、本学から3名が優秀選手(DF鈴木秀くん、MF森本祐平くん、MF川村拓央くん)に選ばれました。また主将の平瀬航くんがベストキャプテンに選ばれました。近年にない快挙で、顧問教員はじめ全員で健闘を讃え合っています。

学生自主企画プロジェクト

優秀団体にCIEELが決定

学生の独創的、意欲的な活動を通して企画力、行動力、実践力等を培うことを目的として、学生の大学運営への参画、学生自身の大学アイデンティティづくりを目指して、毎年



入学式後オリエンテーションでの成果発表

募集を行っている学生自主企画プロジェクトにおいて、経済学部、教育学部からそれぞれ1団体(合計2団体)が優秀団体に選ばれました。経済学部からは、『CIELプロジェクト』が優秀団体に選ばれました。CIELとは生協の学生委員会であり、①生協の運営に組合員の声を届ける、②学生として、組合員の一人として、組合員同士や組合員と生協をつなぐ架け橋となる、③組合員同士の同じ目線で悩みや不安を考え、組合員と共に「充実した大学生活」を目指す、ことを目的としていろいろな活動(取り組み)を行っています。新入生企画、七夕まつり、健康フェア等々、新入生、在学生、あるいは教職員からも好評で、地域の方々との交流も大切に活動を行っています。この優秀団体2団体が、今年度の

びわ湖ホールでの入学式後の新入生オリエンテーションにおいて、学生自主企画プロジェクトの活動報告を行いました。経済学部の『CIELプロジェクト』も、音楽を交えたわかりやすいパワーポイントの資料を使い、堂々とした発表でした。新入生からも賛同を得て、最後に大きな拍手を浴びていました。今後この活動を通して、更なる組合員の充実した大学生活に寄与するよう期待するものです。



**留学体験記**

◆交換留学

スペリオル湖州立大学

経済学科 吉 希

私は、米国ミシガン州スーセントマリー市に位置するスペリオル湖州立大学において平成25年の1月から5月まで交換留学を行いました。

○「学習面」

・Competing-Global Marketplaceではグローバル化が進む現代の市場経済の特徴や課題について、ケーススタディを用いて学びました。  
 ・Introduction to Businessではアメリカにおけるビジネスについて、基礎的概念を具体的な事例と照らし



合わせながら学びました。

・Lifespan Developmentでは心理学の分野に留まらず、年代別にターゲットを絞ったマーケティング戦略にも少し踏み入った内容を学ぶことができました。

そのほか、美術やエアロビクスも学びました。

○「課外活動」ビジネスに関わる団体 Enactus (NSIFE) に所属

プロジェクトを立ち上げ、運営にも携わりました。私が担当していた「Roots」というプロジェクトは、植物を一から栽培し、最終的に地元の学校機関や地域住民に販売する事を目標として地元の高校生とともに小さなビジネスを作り上げました。高校生向けにマーケティング、ファイナンス、温室運営など各グループに分けてレクチャーを行い指導しながら取り組んだ甲斐あって、シカゴ

で開かれた地区大会で優勝チームの一つに選ばれ全国大会出場につながったのは忘れられない思い出です。サークルや団体所属ではありませんが、国際週間という週間イベントが開催された際に留学生や教員が自国についてプレゼン紹介する機会がありました。

それ以外にも唯一の日本人として少しでも日本という国について関心を持ってもらえるよう、文化紹介の一つとして持参した浴衣の着付けなどを披露しました。

全体として課外活動を通して友達輪の広がりは大きく、学習面以外にも非常に充実した学校生活を送ることができました。

◆短期海外研修

タイ・エコスタディーツアー

ファイナンス学科 宮 本 鈴 香

この研修を通じて、次のようなことを学んだ。

まず、タイ人の価値観を行動から観察することができた。タイ人の価値観は私が事前に知りたかったことである。ネットや本などの情報で知ることではできても、実際に目で見た情報とは比べられない。例えば、タイ人は王国への忠誠心が高い。その現れとして、国歌が流れている間は足を止め国歌を聞く。誰もが足を止める。実際に目で見ないとその時の人々の行動を理解することができない体験をした。

次に、本当の意味での環境問題を学ぶことができた。チェンマイ大学での講義で「よい環境、悪い環境の両方を見なければ、環境問題を本当に学んだことにはならない」と教わった。この言葉を教わった後に、山岳民族のホームステイを経験し、自然に囲まれている町と空気が汚れている都会の、二つの地域を実際に訪れることとなった。二つの地域に住んでみてこの言葉の意味を実感した。

また、サバイバル力が身についた。サバイバル力とは自然のものを使得て工夫する力である。具体例を挙げると、調理道具を山から採ってきた竹や石、葉などで代用した。人が作ったものばかりに頼るのではなく工夫する、考える力が大事だと学んだ。今回の研修は講義と実習の内容が



関連しており、学ぶ機会が多く充実した日々を過ごせた。

**タイ・エコスタディーツアー  
ファイナンス学科 諸田 泰己**

タイエコスタディーツアーでは実際に現地で働く人や生活している人の話を聞き、タイの抱える社会問題について学ぶことができた。

少数民族が生活している山の村の村長からは、少数民族の人々が、町の人たちから差別的な目で見られること、街に出たがる村の若者が増える村の人口が減ってしまうことなどの問題について聞くことができた。

またストリートチルドレンを支援するNPOからも、幼くして売春に手を出さざるを得ない子、生まれながらにして国籍を持たない子がいるなどの問題点が挙げられた。

その他、研修中のマングローブ植林では、泥の中を歩くのが困難で、

苗木を一本植えるのに苦勞した。人間が数年で破壊したマングローブを再生させるには、その何倍もの時間がかかる。失ったものを取り戻すには、こうした地道な活動を続けていくほかない。環境問題をじかに感じ、理解を深めることができた。

**ミシガン州立大学夏期語学研修  
社会システム学科 廣瀬 純平**

英語学習を本格的に始めたいと考えて、今回の語学研修に参加することによって学習へのモチベーションは向上し、さらに、日本にいただけでは経験することができないような貴重な経験をたくさんしました。

英語圏外のたくさんの学生とともに英語を英語で学習することで、どのように学習したらよいかという方法を学びました。その方法は、日本でもできることなので帰国後も一部を実践しています。

アメリカ以外の文化もクラスメイトとのコミュニケーションから知ることができ、アメリカ文化は私たちが所属していた英語学習センターのさまざまなプログラムを通して、教室外においても学ぶこともできました。ミシガン州立大学で日本語を学んでいる学生とは、互いに外国語を学ぶものとして良い交流ができました。

今回の研修では多くの友人ができ、日本とは異なる様々な考え方を知る



ことができました。関わった人々は非常に勤勉で、熱心な人がほとんどであり、とても良い刺激になりました。今後の学習や大学生活での活動をよりよいものとして、将来に役立たいという気持ちになりました。



**平成25年度の主な留学先**

国名	大学名	留学生数
アメリカ合衆国	ミシガン州立大学連合	12(11)
オーストラリア	ディーキン大学	8(8)
メキシコ	ゲアナファト大学	3(0)
中国	東北財経大学	2(2)
韓国	啓明大学	6(6)
タイ	チェンマイ大学等	11(10)
ノルウェー	ブスケレード・ベストフォールド大学	1(0)

※( )は短期研修者数で内数

## 就職活動と支援

人生をどう生きるか、どう働くかを考えてください

経済学部特任准教授

就職支援室長 小野 晶 生

後援会の皆様におかれましては、平素より経済学部の就職支援活動に多大のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

### 本学部の就職状況の特徴

本学部の卒業生は、前身の旧制彦根高等商業学校時代からの90年（昨年は創立90周年の節目の年でした）の伝統を受け継ぎ、各方面で活躍しています。大多数は、金融・保険・商業・製造業・IT業界等全国的規模で経済界に進出し活躍していますが、官公庁・教育界・学界へも進出しています。

本学部は伝統的に高い就職率を誇っています

昨年（平成25年）度の本学部の就職決定率は一昨年（93.3%）と同レベルの93.6%でした。平成23年度の90.9%を底に順調に回復してきていると言えるでしょう。

本年（平成26年）度も現時点では順調に推移しており、銘柄的にも好調です。

昨年、週刊ダイヤモンド10月12

日号は全国638大学2100学部「本当の就職率」初公開！と銘打った就職に強い大学・学部のランキングを掲載しました。本学部は全国の文系学部就職率ランキングでは堂々13位でしたが、上位に教育学部が3校含まれていいますので、経済・経営・商学ということになりますとベストテンに入ってきました。就職に強い学部と言えるでしょう。

来年（平成27年）度から制度が大転換

来年（平成27年）度から、3回生の時の学業への支障を極力避けるという大義名分に基つき、就職活動・採用活動に大きな転機が訪れます。

●企業の採用広報開始は3回生の3月

●選考開始は4回生の8月から

●内定は4回生の10月

（従来は4回生の4月）  
（従来も4回生の10月・9月末までは内々定）

このことで何が起ころかといいますが、3月には全国の大学が競って「学内合同企業説明会」を開催しようとし、企業サイドからの大学選別が厳しくなるでしょうし、8月からの2か月間で選考・内定出しとなるでしょうから、学生も厳しい企業選択を迫られることになるでしょう。事実上、小職が昭和40年代の就活で経験した(1)指定校制 (2)先決優先に近い形になることが想定されます。

しかし、自己分析をし、業界研究、企業研究をする期間が3月から

7月まで1か月延びるわけですから、自分の人生を掛ける相手探しのために「己を知り、彼を知る」努力を充分にして欲しいわけです。

本学部及び就職支援室の進路・就職サポート

それでは、前述のような就職活動の動向に対しての本学部の取り組みを紹介させていただきます。次のように十二分過ぎる位に充実したサポート体制が準備されています。

① SUCCESS（滋賀大学キャンパス教育支援システム）Shiga University's Campus Computer Education Support System

② 彦根キャンパス 求人情報提供システム

「滋賀大学経済学部生」が欲しいという熱い想いを込めて、企業・団体等から年間延べ約1,300件の求人票が寄せられています。各学生のしがたいID・パスワードにより自宅のPCからでもアクセス可能です。

③ 就職支援室での就職相談

進路・就職に関する相談なら何でもOKです。原則週4日です。



求人情報提供システム



就職支援室での相談風景

で、電話予約制になっています。毎年延べ350人前後の学生が相談を寄せています。

TEL: 0749-27-1033

④ 就職支援室での情報提供

(1) 個別企業からの企業情報及び業界情報の集約

(2) 個別企業・団体からの求人情報・企業説明会情報の集約

(3) OB/OG訪問のための情報提供

(4) 進路決定者からの「進路報告書」の集約

(5) 就職活動関連の書籍・雑誌・日経新聞等の集約

(6) 就職講座・ガイダンス等の動画視聴・資料提供

(7) 大学連携及び公募型インターンシップ情報の集約

(8) 公務員情報、大学院情報、税理士等専門職情報も集約

(9) PC活用による就職情報収集

- ⑤就職支援室長による1回生対象の『滋賀大学で学ぶ卒業後の進路と就職支援』、2回生対象の『2回生のための就職ガイダンス』、3回生対象の『就職基礎講座』就職活動の進め方』、『就職基礎講座』採用選考準備』の各講座
- ⑥就職ガイダンスなどの充実した支援プログラム  
《各講座・支援プログラムスケジュールは、別刷の「学年暦・行事予定」を参照ください》
- ⑦教職員による企業への採用人数拡大要請
- ⑧就業力育成支援室での支援

本学部の特徴として、本学部卒業生による数々の就職支援

本学部の同窓会組織である「陵水会」のバックアップを中心にして、左記のような支援が準備されています。

(1)「学内合同企業説明会」

本年は2月に実施し、卒業生が就職をしてお世話になっている企業で、有名大手企業中心に168社が参加してくれました。昨年は153社でした。

(2)陵水懇話会

卒業後25年の先輩たち十数名にお見えいただき、業界紹介を中心に働くということにつき、いろいろと懇談してもらいます。昨年は160名ほどの学生が参加しました。

(3)陵水若手懇談会

陵水懇話会と比較してより学生に近い年代の先輩たちが自主的に運営してくれている懇談会です。卒業後

10年未満の先輩たち約10人くらいが出席してくれ、学生たちも毎回50名程度が参加しています。年2回開催です。

(4)陵水会計人会懇談会

伝統的に卒業生の公認会計士や税理士を多数輩出しておりますが、本学部の学生たちにも志望者は沢山います。先輩たちの現役の会計士・税理士の方をお招きして、会計士・税理士の仕事、勉強の仕方などについて忌憚のない意見交換をしていただく懇談会です。

(5)女子学生のための陵水キャリアガイダンス

女性の働く力が大いに求められる時代になって参りました。

本学部も女子学生が1/3を占めております。働くOGと女子学生による女性同士ならではの懇談会により、働く女性のロールモデル形成に努めています。

(6)ゼミを通じての後輩支援

(7)部活を通じての後輩支援

(8)OB/OG訪問への協力など

人生をどう生きるか、どう働くかを考えてください

前述のような手厚い進路・就職支援のためのサポート体制が準備されているわけですが、学生のみなさんには、精神的にも、経済的にも充実した、豊かで楽しい幸せな人生を歩んで欲しいものだと思っています。

一度きりしかない自分自身の人生にはいろいろな生き方があり、働き方があると思います。本学部の学生の



第35回 陵水懇話会開会式

みなさんはほとんどが企業なり官公庁なりへの「就職」を選ばれるわけですが、「就職」というのもいろいろなきなり「就職」ではなく、「人生をどう生きるか、どう働くか」から考えて欲しいと思います。『滋賀大学で学ぶ』ということは、そのための時間が与えられたということだと思います。

「履歴書」「エントリーシート」にちゃんとした内容が書けるような充実した学生生活を

『滋賀大学経済学部』のブランド価値はまだ高いと思います。

しかし、滋賀大学経済学部で学んでいることがすなわち「いい就職先」への就職に繋がるわけではありません。漫然とした日々を送るので

はなく、目的意識を持って充実した学生生活を送ることが十分条件になってくるでしょう。

学生生活の本分は、学業、部活、アルバイト、ボランティア、留学、その他諸々の学生生活の中で、いろいろと経験・体験することにより、自分自身の人生をどう生きるか、どう働くかを自分自身の頭で考え、判断・決断し、自分自身で行動できることになることだと思います。

GIRLS BE AMBITIOUS!!

少子高齢化がものすごいスピードで進んでいます。労働力不足が我が国の行く末を支える上での最重要課題になってきています。移民論議もありますが、まず女性と高齢者の労働力を適正に活用することから考えてみるべきではないでしょうか。機会があるたびに女子学生のみなさんには一生働いてくださいと呼びかけ、提案しています。当然結婚も子供を持つことも大切なことですから、そのためには、産休、育休、そして現場復帰が制度としてあるだけではなく、ちゃんと運用されている企業を選択の目安としてくださいと話しています。また、一生働くからには管理職を目指し、社長の座も視野に入れてくださいと話しています。

本学部にも元気な女子学生が多くて、頼もしく心強いのですが、加えて改めて男子学生にはBOYS BE AMBITIOUS!と檄を飛ばしています。

就職状況

平成25年度就職状況

経済学部特任准教授  
就職支援室長 小野 晶 生

1、平成25年度就職状況の総括

昨年度（平成26年3月）卒業生は経団連の倫理憲章見直しの第2年目の年に当たりました。倫理憲章見直しというのは、平成24年3月卒業生までは企業の採用広報開始が3回生の10月開始であったものを、学業への支障を少しでも緩和しようということ、3回生の12月開始と2か月後ろ倒しになったことを言います。一昨年は、学生たちにとっては当然始めての事態であり、企業サイドも手探りでの粛々とした採用活動となりました。

ところが、昨年度は2年目ということもあり、学生は先輩たちから2か月後ろ倒しということがあっても余り大した影響はなかったというような吹き込みも加わって、就職活動に高を括っていた節があります。就職活動への取り組みも遅かったと思われ、本学部が提供する諸々の支援プログラムへの参加も一昨年は消極的だったと思われます。

また、企業側も4月1日の選考開始は守るにしても、優秀な学生を早く囲い込みたいとの思惑もあり、早い時点からリクルーターやOB/O

Gを使って、めばしい学生にアプローチしていた模様です。

一方、企業にとつては厳選採用するための一定の母数を確保するための母集団形成が困難となり、採用を目標とする大学への積極的なアプローチを試みました。本学部でも学内での個別企業説明会（企業によつてはプラス選考会）が延べ30社を数えました。一昨年とほぼ同数でした。滋賀大学経済学部ブランドはまだまだ健在だと実感した次第です。

2、平成25年度の本学部の特徴

① 就職決定率は一昨年とほぼ同じ  
平成25年度の就職決定率は93.6%となっており、一昨年の93.3%より0.3%向上しましたが、ほぼ同等となりました。マスコミ等で「就職率」として紹介されることの多い「就職比率」（卒業生数マインナス大学院進学者数）を分母、就職者数を分子）は89.1%で、一昨年度比で1.3%上昇したことに、リーマンショック直前の高水準近くまで回復してきました。

（参考）就職決定率＝就職者数／就職希望者数  
479名／512名

② 業種別就職先では、金融業が就職者479名の約24.2%にあたる116名と最多で、次いで約22.5%で製造業108名、卸売業約8.9%で43名、官公庁37名の約8%と続き、製造業への就職が一昨年より5%増えたのが特筆すべき点でしょう。

特に、次の点が特徴的だったと思われる。

- (1) 食品メーカーが目立っています。伊藤園、カルピス、サッポロビール、ダイショー、日清食品HD、日本食研HD、フジッコ、ブルボン（2名）、雪印メグミルク等11社に上ります。
- (2) 京都系メーカーも目立ちました。村田機械（3名）、京セラSLCテクノロジ、村田製作所、GSユアサ（2名）、島津システムソリューションズ、堀場製作所等々です。
- (3) 従来から少なくはなかったのですが、関西電力の5名というのもこの時期目立つといえるでしょう。
- (4) メーカーの伸長に合わせて、金融業に影響が及んだのか金融業で異変が起きました。滋賀銀行が一桁台（8名）に止まり、京都銀行（13名）、十六銀行（9名）の後塵を拝する結果となっています。
- ③ 企業規模別では、一昨年と同傾向で大企業への就職率が約62%と大企業志向は変わらないと言えます。

3、本年（平成26年）度就職状況の展望

① 就職戦線は軟調か？！  
前年度と同様に昨年12月1日から企業の採用広報開始となりましたが、前倒し傾向がより鮮明になっています。景気の回復感を受けて、全体に求人数も増加していますし、来年度採用の不透明感に押されて、今期に多めに手当てしておこうという

思惑も加味されて本年の学生は内定に至りやすい環境になってきています。本学部でも4月1日の選考開始から日にちを置かず食品、自動車関連、商社等の有名企業への内定報告が多くあり、順調に推移していると言えます。

② 「厳選採用」「質重視」は変わらず  
前記のような状況があります。ここ数年続いてきた「厳選採用」「質重視」のハードルはそれほど下がってはいないようです。業界を絞りすぎて全滅だったのでという相談も数件受けています。

③ 「採用重点層へのアプローチ」への対応  
本学部を「採用重点層」と評価していただけの企業からのアプローチは本年も変わらないと思います。

本年2月開催の「学内合同企業説明会」もその傾向でした（本年は168社参加。昨年は153社）。本年も学内での企業説明会開催希望企業には、できるだけ門戸開放をしていきます。

4、来年（平成27年）度就職状況について

前頁で説明させていただいたように来年（平成27年）度から採用広報時期が3か月後ろ倒しの3回生の3月1日に、選考開始が4か月後ろ倒しの4回生の8月1日になります。

	会社名	計	男子	女子
102	エンゼルブレインディングカード製造(株)	1	1	
103	クツワ(株)	1	1	
104	TOTO(株)	1		1
105	トッパン・フォームズ(株)	1	1	
106	日本電気硝子(株)	1	1	
107	ハクソウメディカル(株)	1	1	
108	フジコピアン(株)	1	1	
109	(株)フイヤ金属	1	1	
<b>電気・ガス・熱供給・水道業</b>				
110	関西電力(株)	5	3	2
111	東邦ガス(株)	1	1	
<b>情報通信業</b>				
112	(株)アドバンストラフィックスシステムズ	1		1
113	(株)イセト	1		1
114	伊藤忠テクノソリューションズ(株)	1	1	
115	ウィンテック(株)	1	1	
116	エスツーアイ(株)	1	1	
117	(株)エヌ・ティ・ティ・マーケティングアクト	3	2	1
118	(株)オービックビジネスコンサルタント	1	1	
119	関電システムソリューションズ(株)	1	1	
120	コネクシオ(株)	1		1
121	(株)ザ・ヘッド	1	1	
122	(株)サンライズ	1	1	
123	(株)ジェイ・ビー・クラブ	1	1	
124	(株)滋賀富士通ソフトウェア	1	1	
125	(株)ジュビターテレコム	3	2	1
126	(株)新学社	1	1	
127	スミセイ情報システム(株)	2		2
128	(株)セイノー情報サービス	1	1	
129	大和電設工業(株)	1	1	
130	TDCソフトウェアエンジニアリング(株)	1	1	
131	(株)帝国データバンク	1	1	
132	(株)テクノア	1	1	
133	(株)電算システム	1	1	
134	東京日産コンピューターシステム(株)	1	1	
135	永山コンピューターサービス(株)	1	1	
136	(株)ニッセイコム	1	1	
137	日本情報通信(株)	1	1	
138	日本ユニシス(株)	1	1	
139	(株)ネクシイズ	1	1	
140	(株)富士通ソフトウェアテクノロジー	1	1	
141	(株)プロコーポレーション	1	1	
142	三井情報(株)	1	1	
143	楽天(株)	1	1	
144	(株)リノア	1	1	
<b>運輸業・郵便業</b>				
145	伊藤忠ロジスティクス(株)	1	1	
146	(株)後藤回漕店	1	1	
147	西濃運輸(株)	1	1	
148	大和物流(株)	1	1	
149	(株)塚屋運送	1	1	
150	月星海運(株)	1	1	
151	東海旅客鉄道(株)	1	1	
152	三菱電機ロジスティクス(株)	1	1	
<b>卸売業</b>				
153	アイア(株)	1	1	
154	(株)IMC	1	1	
155	アイワ産業(株)	1	1	
156	石黒メディカルシステム(株)	1	1	
157	伊藤忠商事(株)	1	1	
158	伊藤忠丸紅テクノスチール(株)	1	1	
159	(株)上野忠	1	1	
160	(株)ACN	1	1	
161	尾家産業(株)	1	1	
162	花王カスタマーマーケティング(株)	1	1	
163	交洋貿易(株)	1	1	
164	(株)酒井商会	1	1	
165	三立興産(株)	1	1	
166	(株)GSIクレオス	1	1	
167	新生電機(株)	1	1	
168	(株)スギモト	1	1	
169	(株)住ゴム産業	1	1	
170	ダイキンHVACソリューション中四国(株)	1	1	
171	瀧定名古屋(株)	1	1	
172	都築電気(株)	1	1	
173	東海エレクトロニクス(株)	1	1	
174	(株)東陽	1	1	
175	(株)トーハン	1	1	

	会社名	計	男子	女子
30	タキロン(株)	1	1	
31	武田薬品工業(株)	1	1	
32	日医工(株)	1	1	
33	ニッタ(株)	1	1	
34	日本イーライリリー(株)	1	1	
35	バイエル薬品(株)	1	1	
36	三井化学(株)	1	1	
37	(株)メンテック	1	1	
38	湧永製薬(株)	1	1	
<b>製造業(鉄鋼業・非鉄金属・金属製品)</b>				
39	合同製鐵(株)	1	1	
40	(株)昭栄	1	1	
41	神鋼造機(株)	1	1	
42	住友電気工業(株)	1	1	
43	(株)タカコ	1	1	
44	三菱製鋼(株)	1	1	
45	(株)八幡ねじ	1	1	
<b>製造業(はん用・生産用・業務用機械器具)</b>				
46	(株)IHI	1	1	
47	旭精機(株)	1	1	
48	(株)天辻鋼球製作所	1	1	
49	安全索道(株)	2	2	
50	(株)石垣	1	1	
51	エア・ウォーター防災(株)	1	1	
52	NTN(株)	1	1	
53	オムロンヘルスケア(株)	1	1	
54	川重冷熱工業(株)	1	1	
55	キャンノンマシナリー(株)	1	1	
56	(株)クボタ	1	1	
57	(株)コスメック	1	1	
58	ダイジェット工業(株)	1	1	
59	(株)ダイフク	1	1	
60	大豊工業(株)	1	1	
61	(株)千代田精機	1	1	
62	東レエンジニアリング(株)	1	1	
63	日本ジャバラ工業(株)	1	1	
64	日本精工(株)	1	1	
65	日本テック(株)	1	1	
66	(株)日立建機ティエラ	1	1	
67	(株)不二越	1	1	
68	村田機械(株)	3	1	2
69	(株)モリタ製作所	1	1	
<b>製造業(電子部品等製造)</b>				
70	京セラSLSテクノロジー(株)	1	1	
71	草津電機(株)	1	1	
72	(株)村田製作所	2	2	
<b>製造業(電気・情報通信機械器具)</b>				
73	京セラドキュメントソリューションズ(株)	1	1	
74	(株)GSユアサ	2	2	
75	島津システムソリューションズ(株)	1	1	
76	第一精工(株)	1	1	
77	(株)東芝	2	1	1
78	日東工業(株)	1	1	
79	日本電気(株)	1	1	
80	不二電機工業(株)	1	1	
81	(株)堀場製作所	1	1	
<b>製造業(輸送用機械器具)</b>				
82	愛三工業(株)	1	1	
83	アイシン精機(株)	1	1	
84	曙ブレーキ工業(株)	1	1	
85	(株)アドヴィックス	2	2	
86	(株)エクセディ	1	1	
87	大塚産業マテリアル(株)	1	1	
88	川崎重工(株)	1	1	
89	(株)三五	1	1	
90	スズキ(株)	1	1	
91	住友電装(株)	2	2	
92	津田工業(株)	1	1	
93	(株)デンソー	2	1	1
94	(株)東海理化	1	1	
95	豊田鉄工業(株)	1	1	
96	(株)成田製作所	1	1	
97	本田技研工業(株)	1	1	
98	ヤマハ発動機(株)	1	1	
99	ヤンマー(株)	1	1	
100	豊精密工業(株)	1	1	
<b>製造業(その他の製造)</b>				
101	(株)アーテック	1	1	

平成25年度就職状況				
○進路別内訳	計	男子	女子	
卒業生	550	359	191	
進学者				
大学院	12	10	2	
大学学部等	1	0	1	
専修学校等	6	4	2	
就職者				
企業就職	442	286	156	
公務員	37	23	14	
その他	52	36	16	

進学先・就職先一覧				
○進学先内訳	進学先	計	男子	女子
<b>大学院進学</b>				
1	大阪大学大学院経済学研究科	3	2	1
2	大阪大学大学院工学研究科	1	1	
3	神戸大学大学院国際協力研究科	1	1	
4	神戸大学大学院経営学研究科	1	1	
5	滋賀大学大学院経済学研究科	3	2	1
6	静岡県立大学大学院国際関係学研究科	1	1	
7	兵庫県立大学大学院会計研究科	1	1	
8	早稲田大学大学院会計学研究科	1	1	
<b>学部編入学</b>				
9	滋賀文教短期大学子ども学科	1	1	1
<b>専修学校入学</b>				
10	大分スクールオブビジネス	1	1	
11	大原学園	1	1	
12	大原簿記法律専門学校	1	1	
13	京都製菓技術専門学校	1	1	
14	神戸スポーツアートcocoro専門学校	1	1	
15	LEC	1	1	

○就職先内訳(産業別・業種別)				
	会社名	計	男子	女子
<b>建設業</b>				
1	(株)新井組	1	1	
2	(株)一条工務店	4	2	2
3	エス・バイ・エル(株)	1	1	
4	新生ホームサービス(株)	1	1	
5	住友電設(株)	1	1	
6	大日本土木(株)	1	1	
7	大和ハウス工業(株)	1	1	
8	(株)トヨー建設	1	1	
9	西岡化建(株)	1	1	
10	ニッタン(株)	1	1	
<b>製造業(食料品・飲料・たばこ・飼料)</b>				
11	(株)伊藤園	1	1	1
12	カルビス(株)	1	1	
13	サッポロビール(株)	1	1	
14	I Gサミット・ホールディングス	1	1	
15	(株)ダイショー	1	1	
16	日清食品ホールディングス(株)	1	1	
17	日本食研ホールディングス(株)	1	1	
18	フジッコ(株)	1	1	
19	(株)ブルボン	2	1	2
20	(株)フレンテ	1	1	
21	雪印メグミルク(株)	1	1	
<b>製造業(繊維工業)</b>				
22	岡本(株)	1	1	
23	倉敷紡績(株)	1	1	
24	東海サーモ(株)	1	1	
<b>製造業(印刷・関連業)</b>				
25	(独)国立印刷局	1	1	
<b>製造業(化学工業・石油製品・医薬品等)</b>				
26	アドバンテックグループ	1	1	
27	(株)池田模範堂	1	1	
28	大倉工業(株)	1	1	
29	大日本除虫菊(株)	1	1	

会社名		計	男子	女子
<b>生活関連サービス</b>				
322	㈱MTG	1	1	
323	大和観光開発㈱	1		1
324	高見㈱	1		1
325	㈱東急スポーツオアシス	1	1	1
326	ビーエムサブライ㈱	1	1	
<b>農業・林業</b>				
327	自営農業	1	1	
<b>学校教育</b>				
328	(学)西大和学園	1		1
<b>その他の教育、学習支援業</b>				
329	(有)たかぎ	1		1
330	㈱ベネッセコーポレーション	1		1
331	㈱リルシーズ	1	1	
<b>医療・保健</b>				
332	愛知県厚生農業協同組合連合会	2	1	1
333	日本赤十字社 岡山県支部	1	1	
<b>社会保険・福祉</b>				
334	聖隷福祉事業団	1	1	
335	日本年金機構	1	1	
336	社会福祉法人 柏清会	1	1	
337	㈱ユニマツそよ風	1	1	
<b>複合サービス</b>				
338	北びわこ農業協同組合	2	2	
339	京都やましろ農業協同組合	1		1
340	全国農業協同組合連合会滋賀県本部	1	1	
341	全国農業協同組合連合会長崎県本部	1	1	
342	日本郵便㈱	3	2	1
<b>その他のサービス</b>				
343	㈱イボキン	1		1
344	㈱ウィルウェイ	1	1	
345	京都商工会議所	1		1
346	ツネイシビジネスサービス㈱	1		1
347	㈱ビジネスサポートセンター	1	1	1
348	㈱ファルコビジネスサポート	1	1	1
349	プロニクス㈱	1		1
350	三菱電機ビルテクノサービス㈱	1	1	
<b>国家公務</b>				
351	金沢国税局	2	1	1
352	滋賀労働局	1	1	
353	中国財務局	1	1	
354	東京国税局	1		1
355	名古屋国税局	2	2	
356	陸上自衛隊	1	1	
<b>地方公務</b>				
357	愛荘町立小学校(事務)	1		1
358	愛知県庁	1	1	1
359	茨木市役所	1		1
360	永平寺町役場	1	1	
361	各務原市立那加中学校	1		1
362	加古川市役所(臨時職員)	1	1	
363	岐阜県庁	2	2	
364	京都市役所	1	1	
365	京都府庁	1		1
366	桑名市役所	1	1	
367	神戸市役所	1	1	
368	湖南市役所	1		1
369	滋賀県警察	2	1	1
370	滋賀県庁	1	1	
371	精華町役場	1	1	
372	高島市役所	1	1	
373	名古屋市役所	1	1	
374	浜松市役所	1		1
375	東近江市立小学校(事務)	1	1	1
376	彦根市役所	1	1	
377	彦根市立小学校(事務)	1	1	
378	広島県庁	1	1	
379	福井県警察	1	1	
380	舞鶴市役所	1		1
381	米原市立小学校(事務)	1		1
382	松阪市役所	1		1
383	守山市役所	1	1	

会社名		計	男子	女子
251	岡崎信用金庫	1	1	
252	蒲郡信用金庫	1	1	
253	きのくに信用金庫	1		1
254	岐阜信用金庫	5	3	2
255	京都信用金庫	1	1	
256	京都中央信用金庫	3	3	
257	湖東信用金庫	1		1
258	㈱商工組合中央金庫	1	1	
259	瀬戸信用金庫	1	1	
260	但陽信用金庫	1	1	
261	津山信用金庫	1		1
262	富山県信用組合	1		1
263	中兵庫信用金庫	1	1	1
264	西尾信用金庫	1	1	
265	兵庫県信用農業協同組合連合会	1	1	
266	米子信用金庫	1	1	
<b>金融業(証券)</b>				
267	いちよし証券㈱	1	1	
268	今村証券㈱	1	1	
269	SMBC日興証券㈱	1		1
270	岡三証券㈱	1	1	
271	野村証券㈱	1	1	
272	丸三証券㈱	1	1	
273	みずほ証券㈱	1		1
274	三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱	1	1	
<b>金融業(その他)</b>				
275	イオンクレジットサービス㈱	1		1
276	大阪ガスファイナンス㈱	1		1
277	大阪府中小企業信用保証協会	1	1	
278	滋賀県信用保証協会	1	1	
279	シャープファイナンス㈱	1	1	
280	トヨタファイナンス㈱	1	1	
281	㈱日本政策金融公庫	1	1	
282	兵庫県信用保証協会	1	1	
<b>保険業</b>				
283	NKSJひまわり生命保険㈱	1	1	
284	ジェイアンドエス保険サービス㈱	1	1	
285	住友生命保険(相)	1	1	
286	全国共済農業協同組合連合会岐阜本部	1	1	
287	全国共済農業協同組合連合会愛知県本部	1	1	
288	損害保険ジャパン日本興亜㈱	3	1	2
289	損害保険料率算出機構	1	1	
290	第一生命保険㈱	1	1	1
291	大同生命保険㈱	1		1
292	日本生命保険(相)	3	1	2
293	富国生命保険相互会社	1	1	
294	三井住友海上火災保険㈱	1	1	
295	三井生命保険㈱	2	2	
296	三井ダイレクト損害保険㈱	1		1
297	明治安田生命保険(相)	1	1	
<b>不動産取引・賃貸・管理業</b>				
298	㈱日本建商	1		1
299	日本ホールディングス㈱	1	1	
300	㈱長谷工アーベスト	1	1	
301	㈱阪神住建	1	1	
302	三井不動産㈱	1	1	
<b>法務</b>				
303	㈱UBIC	1		1
<b>その他専門・技術サービス業</b>				
304	㈱アーリア	1		1
305	アビームコンサルティング㈱	1	1	
306	アプライアンスソリューション㈱	1	1	
307	㈱インソース	1		1
308	㈱N I コンサルティング	1	1	
309	㈱京滋リビング新聞アドセンター	1		1
310	KCCSマネジメントコンサルティング㈱	1	1	
311	㈱スタジオアリス	1		1
312	税理士法人飛騨会計事務所	1	1	
313	㈱ファインスター	1	1	
314	Future Rays㈱	1	1	
315	ポストン・コンサルティング・グループ	1		1
316	三菱電機プラントエンジニアリング㈱	1	1	
317	南総合会計事務所	1	1	
<b>宿泊業・飲食サービス業</b>				
318	自営飲食店	1	1	
319	アパグループ	1	1	
320	㈱京都ホテル	1		1
321	ドリームフーズ㈱	2	2	

会社名		計	男子	女子
176	豊田通商㈱	1	1	
177	㈱豊通マシナリー	1	1	
178	日鉄住金物産㈱	1	1	
179	日本酒類販売㈱	1		1
180	萩原電気㈱	1	1	
181	富士ゼロックス㈱	1		1
182	富士貿易㈱	1	1	
183	ホシザキ北海道㈱	1		1
184	㈱マクニカ	1	1	
185	㈱増田医科器械	1		1
186	三谷商事㈱	1	1	
187	三菱食品㈱	1	1	
188	村上化学㈱	1	1	
189	明治フレッシュネットワーク㈱	1	1	
190	㈱明成商会	1		1
191	㈱メタルワン特殊鋼	1	1	
192	森村商事㈱	1	1	
193	もりや産業㈱	1	1	
194	矢崎総業㈱	1	1	
195	㈱山善	1	1	
<b>小売業</b>				
196	㈱アミン	1	1	1
197	㈱イオンビッグ	1		1
198	イズミヤ㈱	1	1	
199	㈱宇治田原製茶場	1		1
200	㈱エーツー	1	1	
201	㈱カーゾン	1	1	
202	カインドオール㈱	1	1	
203	キヤノンシステムアンドサポート㈱	1	1	
204	㈱クリエイトエス・ディー	1		1
205	ケンコーコム㈱	1		1
206	㈱コマ兵	1		1
207	コントワー・デ・コトニエ ジャパン㈱	1		1
208	㈱サンミュージック	1	1	
209	㈱ジェオグラフィ	1	1	
210	㈱セブーン・イレブン・ジャパン	1		1
211	㈱千趣会	1		1
212	大黒天物産㈱	1	1	
213	㈱田村紙店	1	1	
214	富山トヨベツト㈱	1	1	
215	㈱ハートフレンド	1		1
216	㈱パロー	1	1	
217	㈱ヒマラヤ	1	1	
218	㈱フィル	1		1
219	㈱マインドウインド	1		1
220	㈱モダンブルー	1	1	
221	㈱ヤマカワ	1	1	
222	ユニー㈱	1		1
223	㈱ユニクロ	1		1
224	㈱ロートン	1	1	
<b>金融業(銀行)</b>				
225	㈱イオン銀行	1	1	
226	㈱大垣共立銀行	3	2	1
227	㈱関西アーバン銀行	7	1	6
228	㈱京都銀行	13	9	4
229	㈱高知銀行	1		1
230	㈱山陰合同銀行	2	1	1
231	㈱滋賀銀行	8	4	4
232	㈱静岡銀行	1	1	
233	㈱島根銀行	1		1
234	㈱十六銀行	9	5	4
235	㈱大正銀行	1	1	
236	㈱但馬銀行	1	1	
237	㈱中京銀行	1	1	
238	㈱中国銀行	2	1	1
239	中信銀行(中国)	1	1	
240	㈱富山第一銀行	1	1	
241	㈱名古屋銀行	2	2	
242	㈱百五銀行	3	1	2
243	みずほフィナンシャルグループ	5	3	2
244	㈱三井住友銀行	1		1
245	㈱三菱東京UFJ銀行	4	1	3
246	㈱みなと銀行	3	3	
247	㈱ゆうちょ銀行	1		1
<b>金融業(協同組織)</b>				
248	愛知県信用農業協同組合連合会	1	1	
249	尼崎信用金庫	3	1	2
250	いちい信用金庫	2	2	

**後援会総会**

4月4日(金)入学式後に開催されました経済学部後援会総会には、多数の皆様のご出席をいただきありがとうございました。

総会では、戸田後援会会長、小倉経済学部長の挨拶、平成25年度決算及び26年度予算案の審議、新委員の選出があり、続いて、学務関係事項及び学生関係事項の説明、就職状況について報告がありました。総会で承認されました平成25年度決算及び26年度予算について、出席いただけなかった会員の皆様に、ここに決算書と予算書を掲載させていただきます。

**平成25年度 経済学部後援会収支報告**

後援会総会



**収入** (単位：円)

科目	決算額	備考
前年度繰越額	572,354	
会費 (学部新入生)	8,490,000	566人× @15,000
会費 (編入生)	157,500	21人× @ 7,500
会費 (大学院新入生)	135,000	18人× @ 7,500
利息	1,067	
収入合計	9,355,921	

**支出** (単位：円)

科目	予算額	決算額	過不足額	備考
①厚生体育費補助	3,120,000	3,115,056	4,944	近国体運営費、大会出場者交通費、課外活動等補助
②文化活動補助	1,440,000	1,418,441	21,559	開学祭、滋大祭、課外活動等補助
③学生研究調査費補助	70,000	56,000	14,000	学生懸賞論文副賞、優秀卒業論文副賞
④学務関係補助	1,374,000	1,318,135	55,865	TOEIC-IP受験補助、成績送付経費等
⑤就職補助費	800,000	800,000	0	合同企業説明会等参加経費、OB懇談会経費
⑥団体分担金	140,000	32,000	108,000	会費、学会開催経費等補助
⑦研究所等補助	450,000	450,000	0	資料購入、運営費等補助
⑧入学式・卒業式等経費	300,000	158,410	141,590	入学式、総会経費、卒業式経費補助
⑨広報費	400,000	389,756	10,244	後援会だより印刷費、送料
⑩渉外費	550,000	483,486	66,514	学部事業補助、慶弔費等
⑪総務費	28,000	14,644	13,356	通信費等
⑫外国人留学生後援会援助費	50,000	50,000	0	留学生後援会援助
⑬90周年記念事業援助費積立	200,000	200,000	0	
⑭予備費	433,921	21,540	412,381	
支出合計	9,355,921	8,507,468	848,453	

**平成25年度 図書充実費収支報告**

**収入** (単位：円)

科目	決算額	備考
前年度繰越額	581,381	
会費 (学部新入生)	566,000	566人× @1,000
会費 (編入生)	10,500	21人× @ 500
会費 (大学院新入生)	9,000	18人× @ 500
利息	144	
収入合計	1,167,025	

**支出** (単位：円)

科目	決算額	備考
図書購入費等	463,550	
次年度繰越額	703,475	
支出合計	1,167,025	

**平成25年度 体育充実費収支報告**

**収入** (単位：円)

科目	決算額	備考
前年度繰越額	442,428	
会費 (学部新入生)	566,000	566人× @1,000
会費 (編入生)	10,500	21人× @ 500
会費 (大学院新入生)	9,000	18人× @ 500
利息	126	
収入合計	1,028,054	

**支出** (単位：円)

科目	決算額	備考
近国体分担金	200,000	
ゴルフ実習費	90,000	
スキー教室経費	261,323	
次年度繰越額	476,731	
支出合計	1,028,054	

## 平成26年度 経済学部後援会予算

## 収入

(単位:円)

後援会だより編集委員会

科目	予算額	備考
前年度繰越額	848,453	
会費(学部新入生)	8,490,000	566人×@15,000
会費(編入生)	157,500	21人×@7,500
会費(大学院新入生)	135,000	18人×@7,500
利息	1,000	
収入合計	9,631,953	



## 支出

(単位:円)

科目	予算額	備考
①厚生体育費補助	3,120,000	近国体運営費、大会出場者交通費、課外活動等補助
②文化活動補助	1,440,000	開学祭、滋大祭、課外活動等補助
③学生研究調査費補助	70,000	学生懸賞論文副賞、優秀卒業論文副賞
④学務関係補助	1,374,000	学務関係諸経費補助、TOEIC-IP受験補助、成績送付経費等
⑤就職補助費	800,000	合同企業説明会等参加経費補助
⑥団体分担金	140,000	会費、学会開催経費等補助
⑦研究所等補助	450,000	資料購入、運営費等補助
⑧入学式・卒業式等経費	300,000	入学式、総会経費、卒業式経費補助
⑨広報費	420,000	後援会だより印刷費、送料
⑩渉外費	550,000	学部事業補助、慶弔費等
⑪総務費	28,000	通信費等
⑫外国人留学生後援会援助費	50,000	留学生後援会援助金
⑬経済学部記念事業援助費積立	100,000	
⑭予備費	789,953	
支出合計	9,631,953	

## 平成26年度 図書充実費予算

## 収入

(単位:円)

## 支出

(単位:円)

科目	予算額	備考	科目	予算額	備考
前年度繰越額	703,475		図書購入費等	700,000	
会費(学部新入生)	566,000	566人×@1,000	予備費	589,115	
会費(編入生)	10,500	21人×@500			
会費(大学院新入生)	9,000	18人×@500			
利息	140				
収入合計	1,289,115		支出合計	1,289,115	

## 平成26年度 体育充実費予算

## 収入

(単位:円)

## 支出

(単位:円)

科目	予算額	備考	科目	予算額	備考
前年度繰越額	476,731		近国体分担金	200,000	
会費(学部新入生)	566,000	566人×@1,000	ゴルフ実習費	200,000	
会費(編入生)	10,500	21人×@500	スキー教室経費	200,000	
会費(大学院新入生)	9,000	18人×@500	予備費	462,351	
利息	120				
収入合計	1,062,351		支出合計	1,062,351	

## 平成26年度 後援会役員名簿

会長	戸田 茂	監事	山口 真弘	委員	伏木 和禎
副会長	河合 宏治	監事	山口 健作	委員	福嶋 美子
副会長	富田 圭一	委員	北川 保	委員	中村 愛子
幹事	深尾 一郎	委員	中村はるひ	委員	西川みどり
幹事	福田 直規	委員	福岡うた子	委員	小林 哲也
幹事	田口 誠一	委員	横田 修	委員	廣部 重喜
幹事	辰村ひろ子	委員	平野 義和		
幹事	伊勢村文二	委員	伊藤 正之		

## 編集後記

本後援会だよりは本学部の次のURLでもご覧いただけます。

<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=31>

会員の皆様の記事についての感想や要望、後援会や経済学部に対する要望、ご意見を郵送又はFAXでお聞かせください。

〒522-8522 彦根市馬場一丁目1-1  
滋賀大学経済学部  
FAX: 0749-27-1132  
TEL: 0749-27-1030